

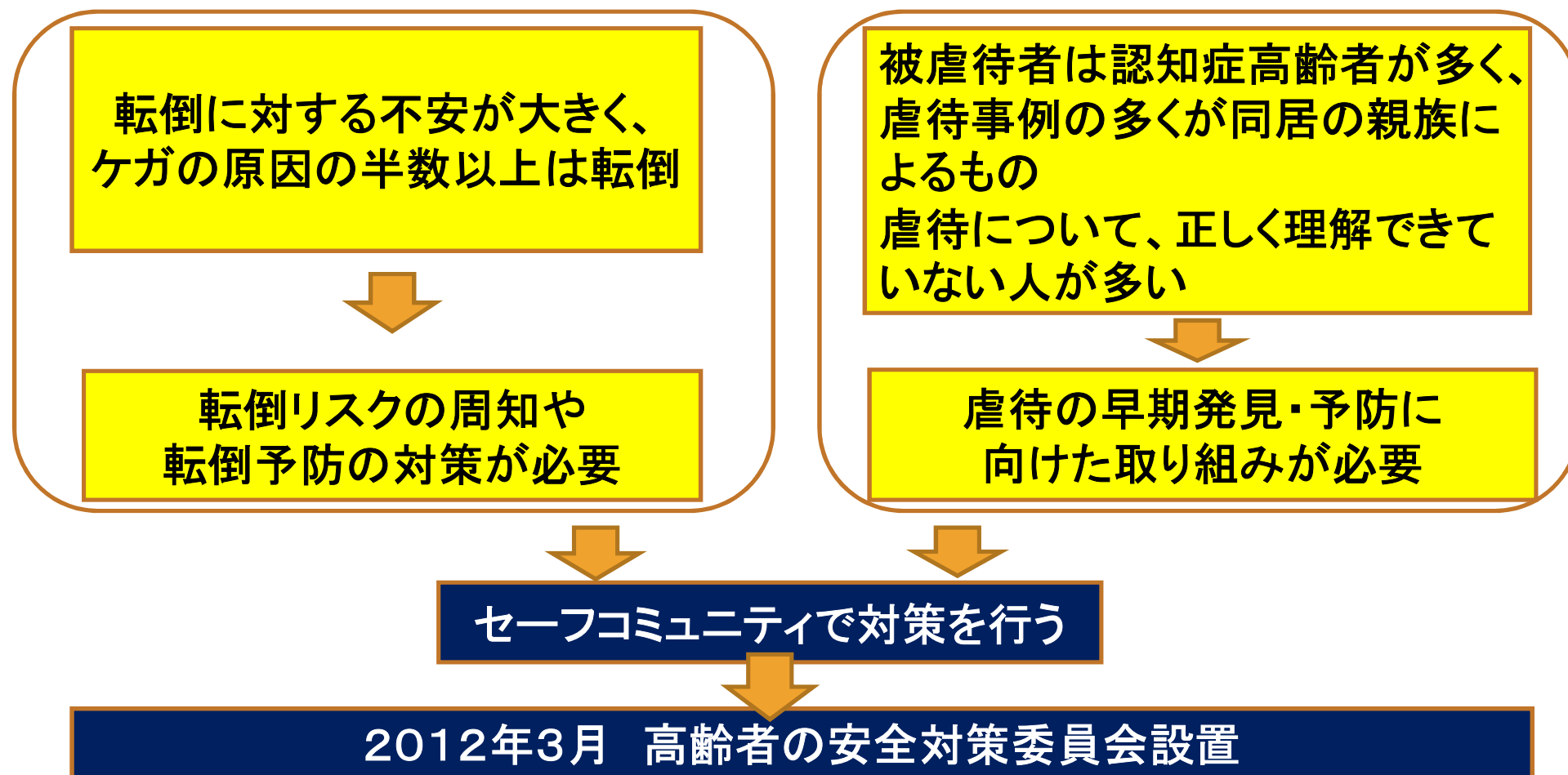


久留米市セーフコミュニティ 高齢者の安全対策委員会

発表日 2022年 12月 21日
発表者 高齢者の安全対策委員会委員長 濱本 孝弘
所 属 公益社団法人 福岡県作業療法協会

1 高齢者の安全対策委員会の設置の背景

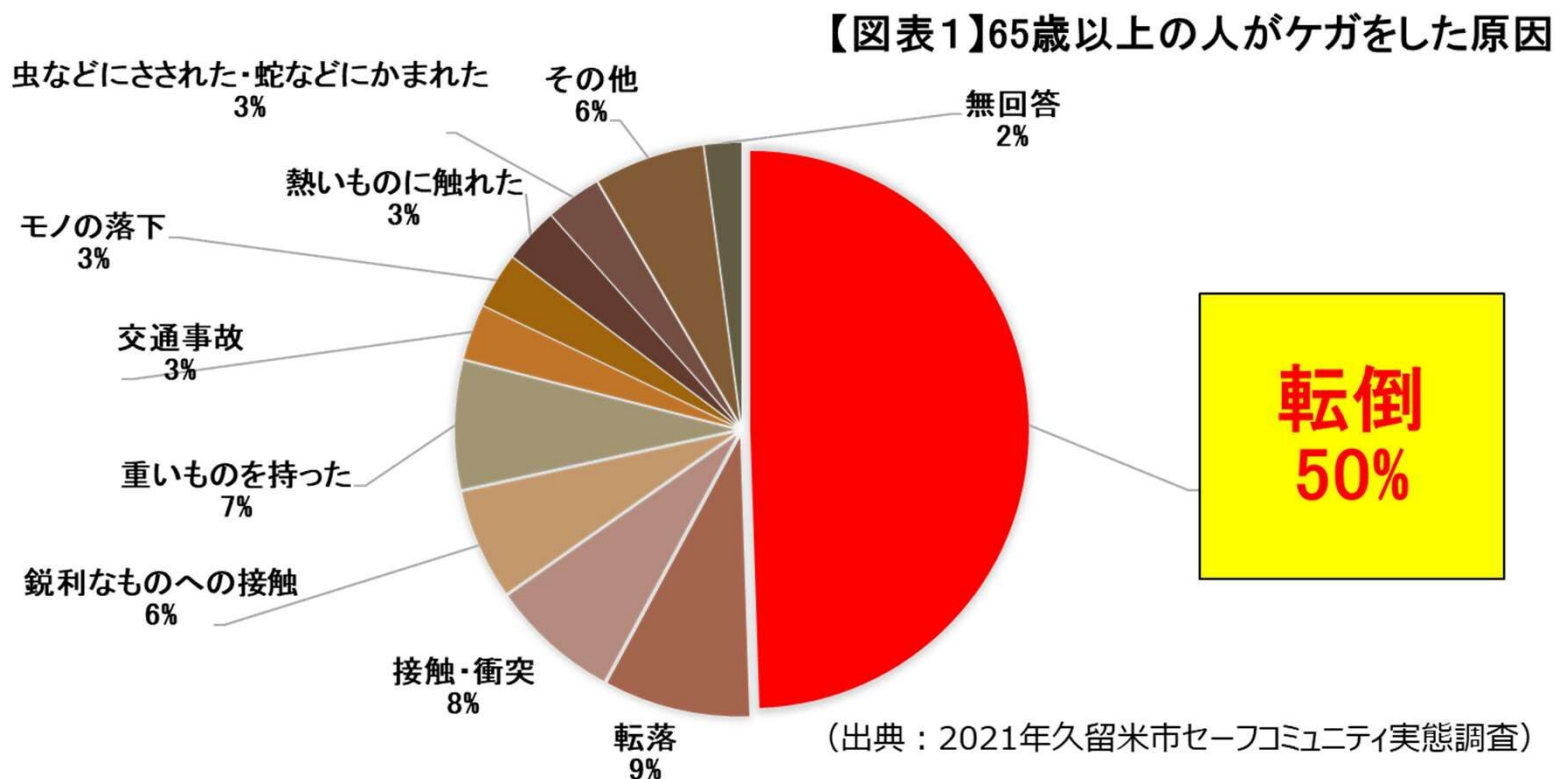
＜＜2011年度取組み開始時＞＞



2 高齢者の安全対策委員会の構成メンバー（2022年現在）

区 分	所 属	
住民組織等	1	久留米市民生委員児童委員協議会
	2	久留米市老人クラブ連合会
	3	（社福）久留米市社会福祉協議会
	4	（公社）福岡県作業療法協会
	5	（特活）久留米介護福祉サービス事業者協議会
	6	（一社）くるめ地域支援センター
	7	久留米市校区まちづくり連絡協議会
	8	（特非）にここ会
関係機関	9	久留米警察署（生活安全課）
	10	久留米広域消防本部（救急防災課）
行政機関	11	久留米市健康福祉部地域福祉課
	12	久留米市健康福祉部介護保険課
	13	久留米市健康福祉部保健所健康推進課
	14	久留米市健康福祉部長寿支援課

3-1 データに基づく課題（転倒予防）



高齢者がケガをした原因の5割は転倒

3-2 データに基づく課題（転倒予防）

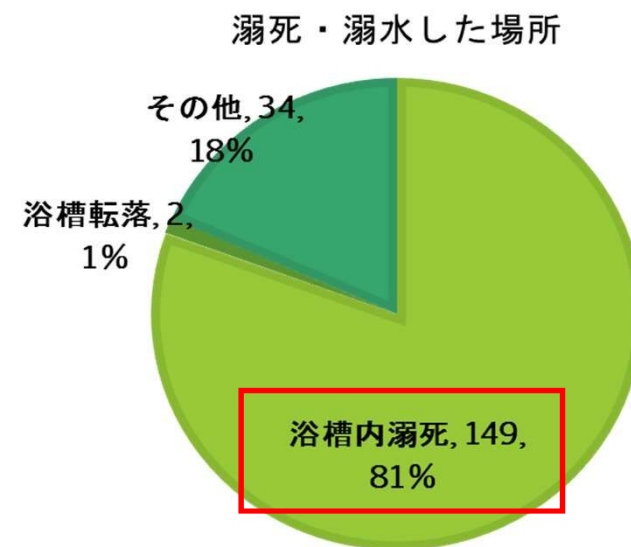
【図表2】年齢層別 不慮の事故等による死亡

※（ ）内は人数

（出典：人口動態統計、2016～2020の5年間の累計）

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
60～69歳	自殺	溺死・溺水（21）	その他	窒息	交通事故
70～79歳	溺死・溺水（52）	自殺	窒息	その他	転倒・転落（13）
80～89歳	溺死・溺水（83）	その他	転倒・転落（33）	窒息	自殺
90歳～	転倒・転落（45）	溺死・溺水（28）	窒息	その他	自殺

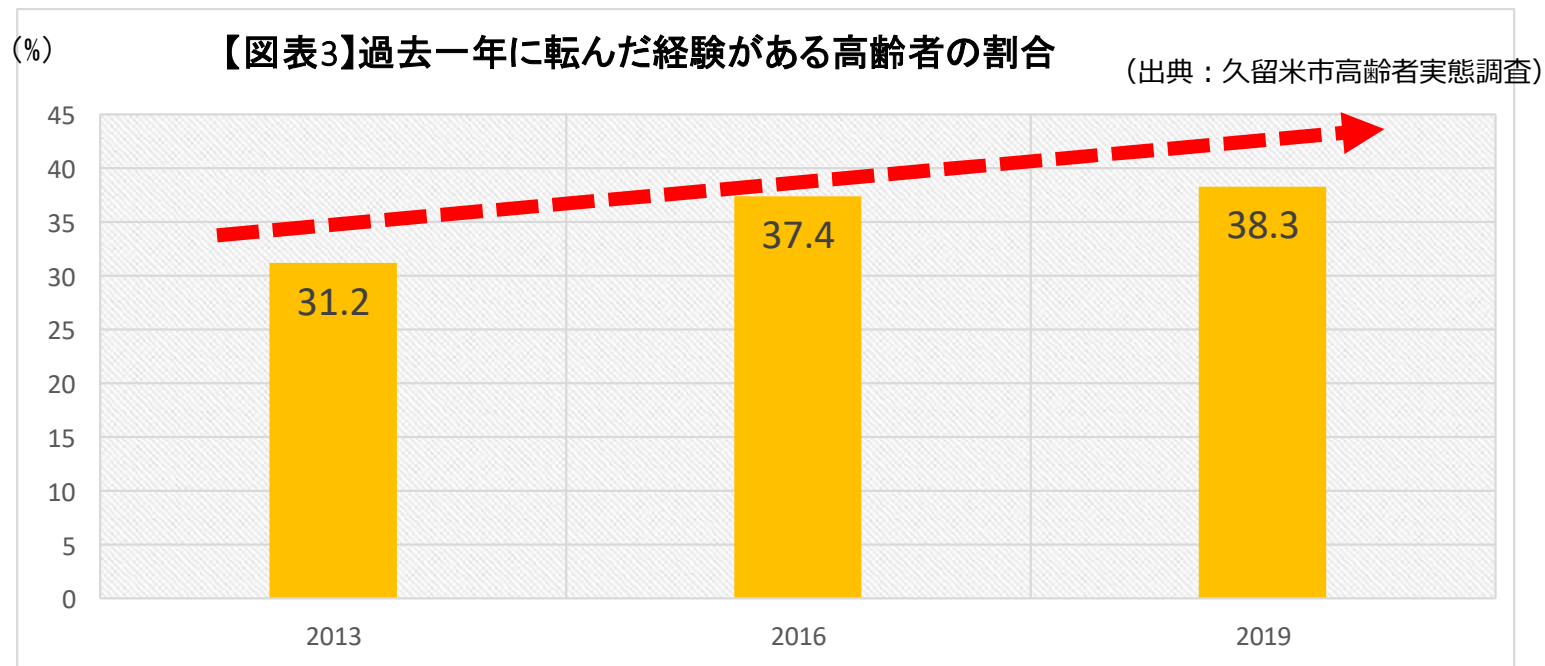
【図表2-①】



出典：人口動態統計 2012年(H24年)～2016年(H28年)

高齢になるほど**転倒・転落**、**溺死・溺水**による死亡が多い。
溺死・溺水の8割は、家庭内の浴槽で発生。

3-3 データに基づく課題（転倒予防）

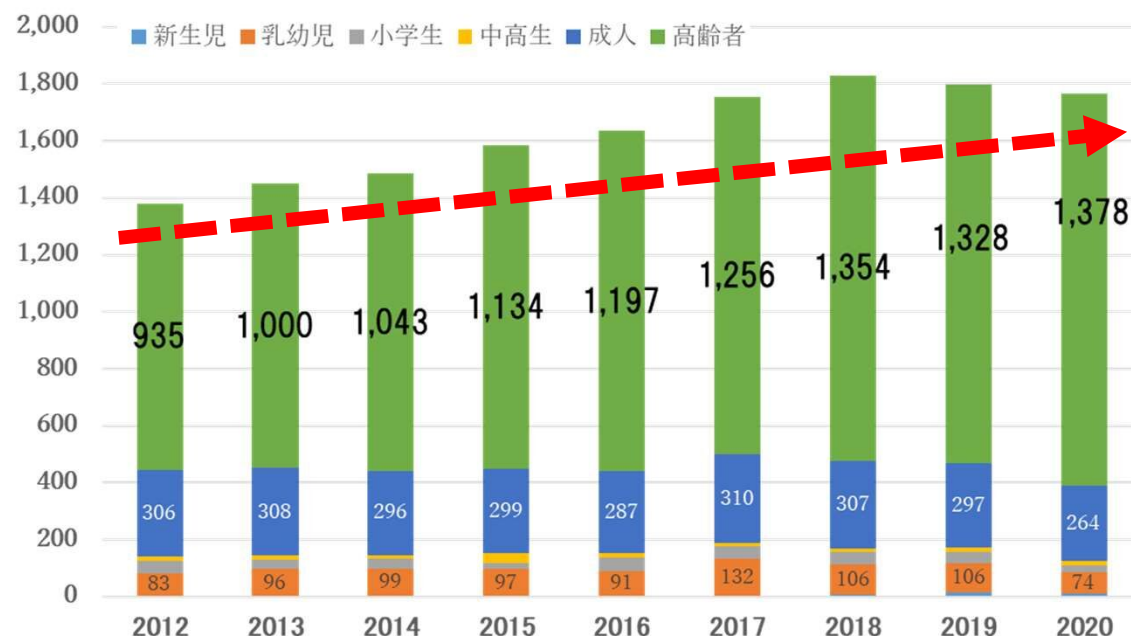


転倒している高齢者の割合は増加しており、
過去一年で**約4割の方が転倒している**

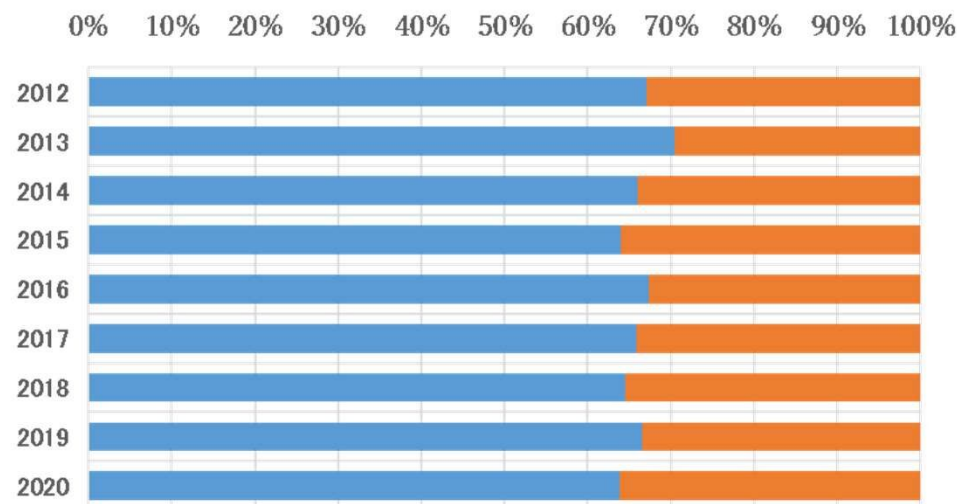
3-4 データに基づく課題（転倒予防）

(件数)

【図表4】転倒による救急搬送数（年齢別内訳）



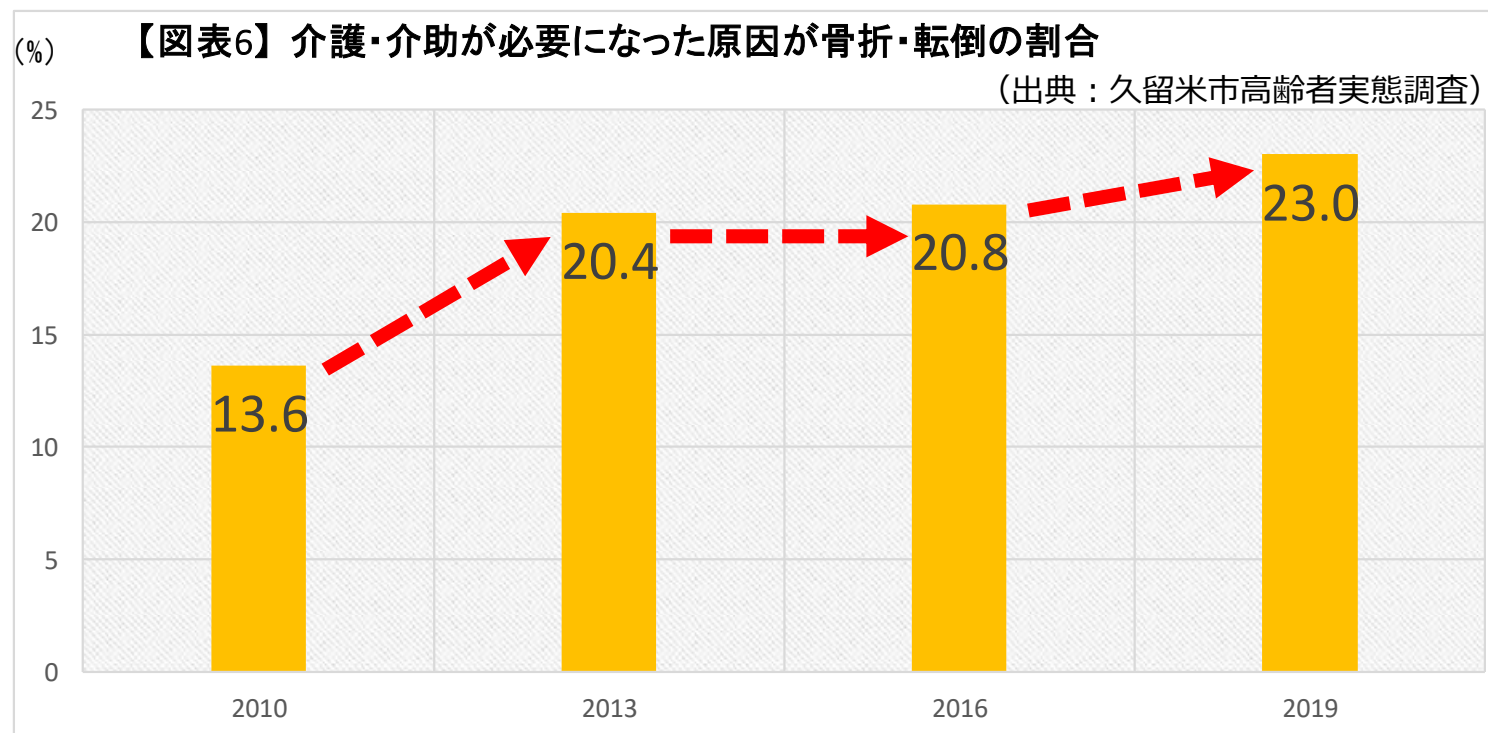
【図表5】転倒場所の割合 ■屋内 ■屋外



(出典：久留米広域消防本部救急搬送データ)

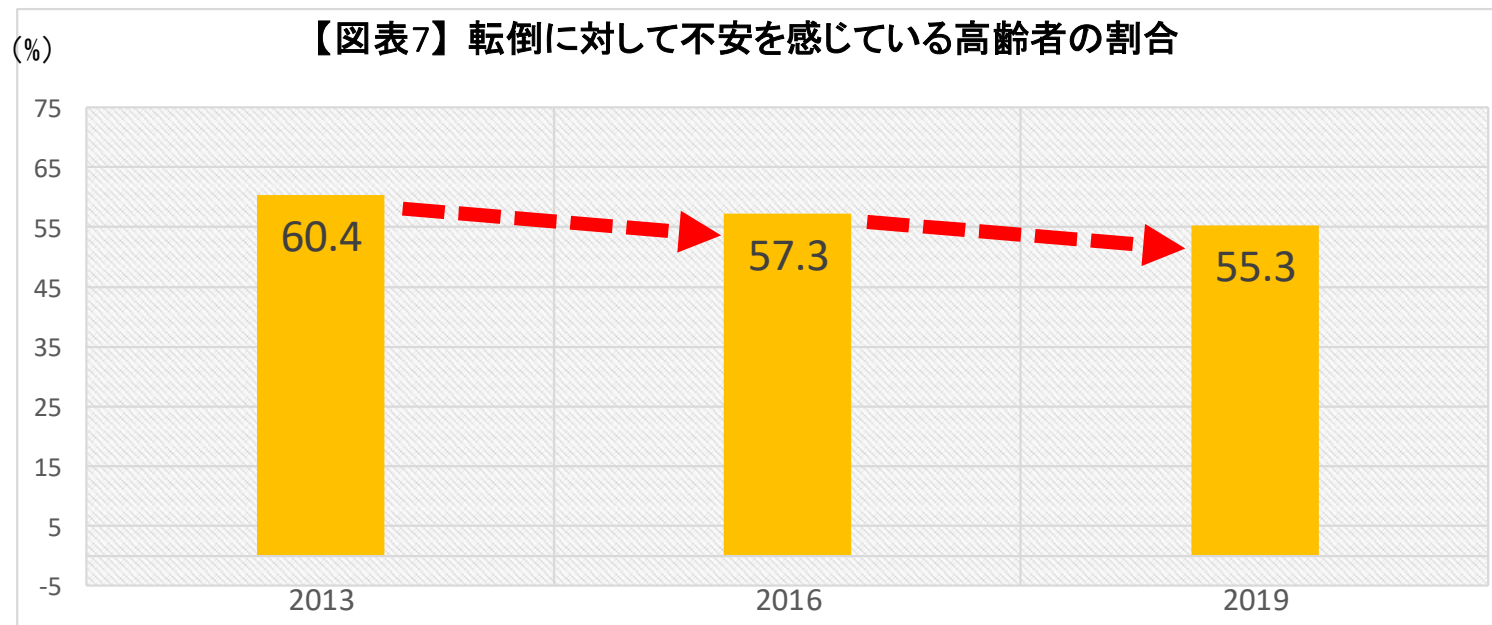
高齢者の転倒による救急搬送は増加傾向にあり、転倒の場所は6割以上が屋内である。

3-5 データに基づく課題（転倒予防）



介護・介助が必要になった原因として、
骨折・転倒の割合が増加している。

3-6 データに基づく課題（転倒予防）



（出典：久留米市高齢者実態調査）

減少傾向であるが、**半数以上の高齢者が転倒に不安を感じている**

3-7 課題の整理（高齢者の転倒予防について）

○高齢者の転倒は介護・介助が必要になるリスク大・・・

高齢者のケガの原因の5割は転倒 【図表1】
介護・介助が必要になった原因として、骨折・転倒の割合が増加 【図表6】

○転倒・転落、溺死・溺水による死亡が多い・・・

高齢になるほど転倒・転落、溺死・溺水による死亡が多い【図表2】

○高齢者の転倒の増加・・・

過去一年で約4割の方が転倒している【図表3】
高齢者の転倒による救急搬送は増加傾向【図表4】

○転倒は身近な場所で多く発生・・・

高齢者の転倒場所の6割以上が屋内 【図表5】

○転倒に対する不安の大きさ・・・

半数以上の高齢者が転倒に不安を感じている【図表7】

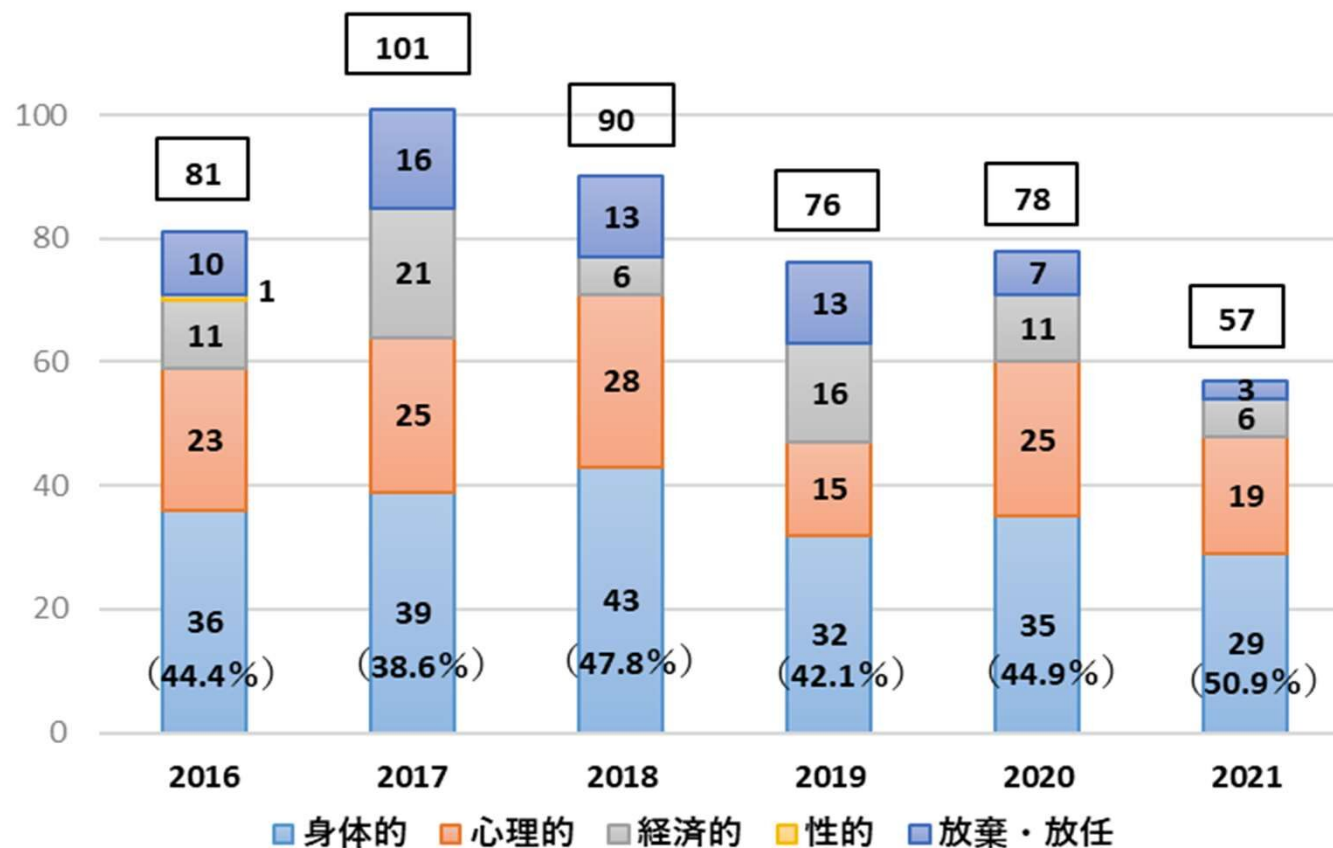


転倒予防に取り組む必要がある

4-1 データに基づく課題（虐待防止）

【図表8】久留米市の高齢者虐待件数の推移

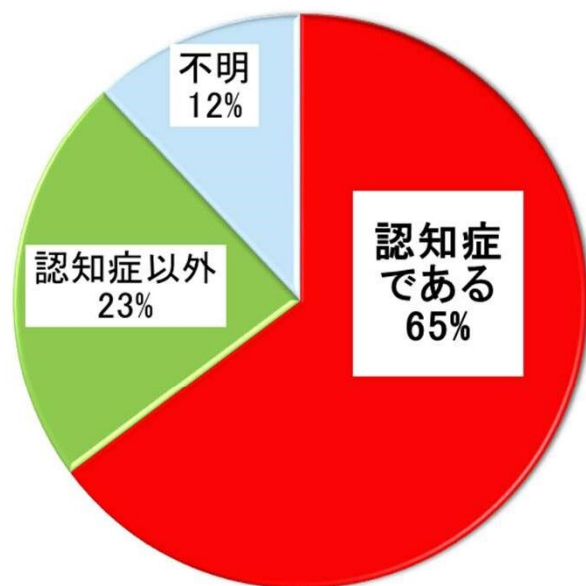
（出典：2014～2021年長寿支援課統計）



高齢者の虐待
の約半数は、
「身体的虐待」

4-2 データに基づく課題（虐待防止）

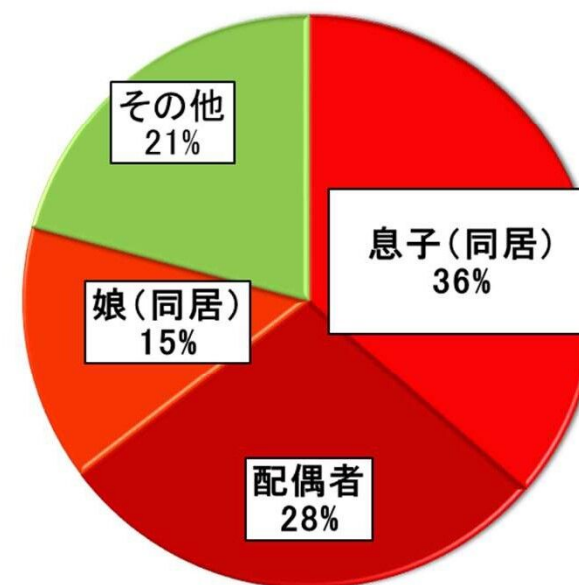
【図表9】被虐待者における認知症の有無



（出典：2017～2020年長寿支援課統計）

被虐待者の約6割に認知症の症状がある

【図表10】虐待者の構成

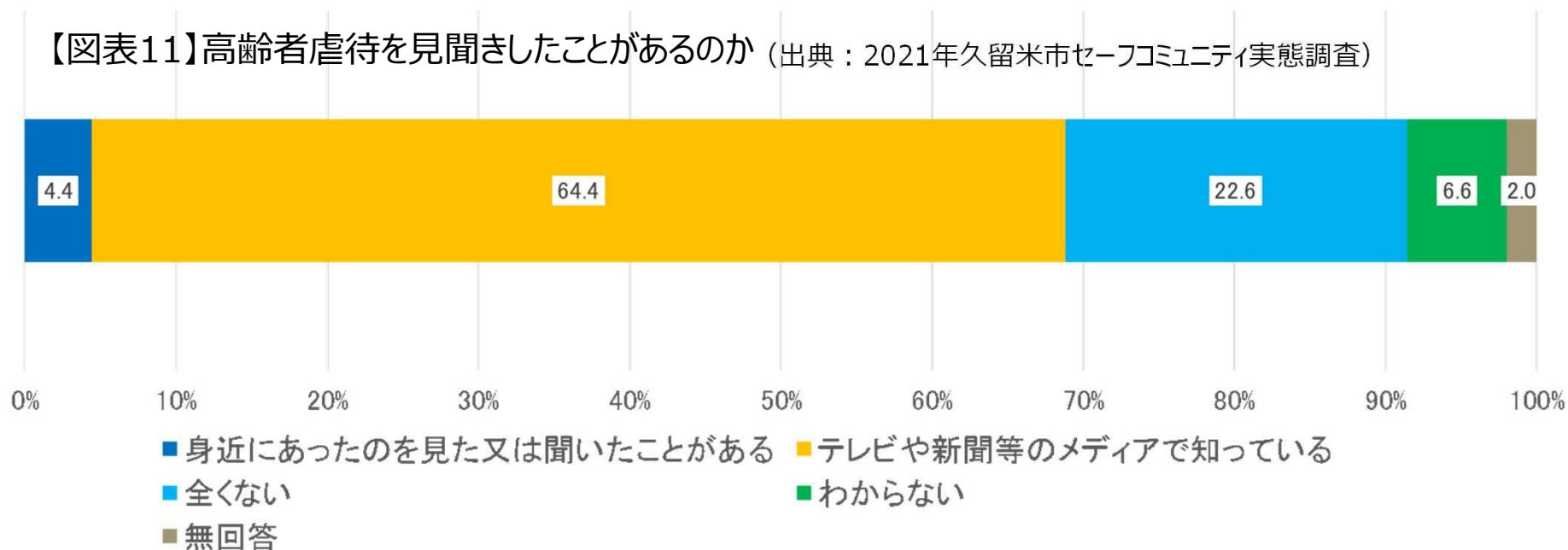


（出典：2017～2020年長寿支援課統計）

虐待事例の7割以上が同居親族によるもの

4-3 データに基づく課題（虐待防止）

【図表11】高齢者虐待を見聞きしたことがあるのか（出典：2021年久留米市セーフコミュニティ実態調査）

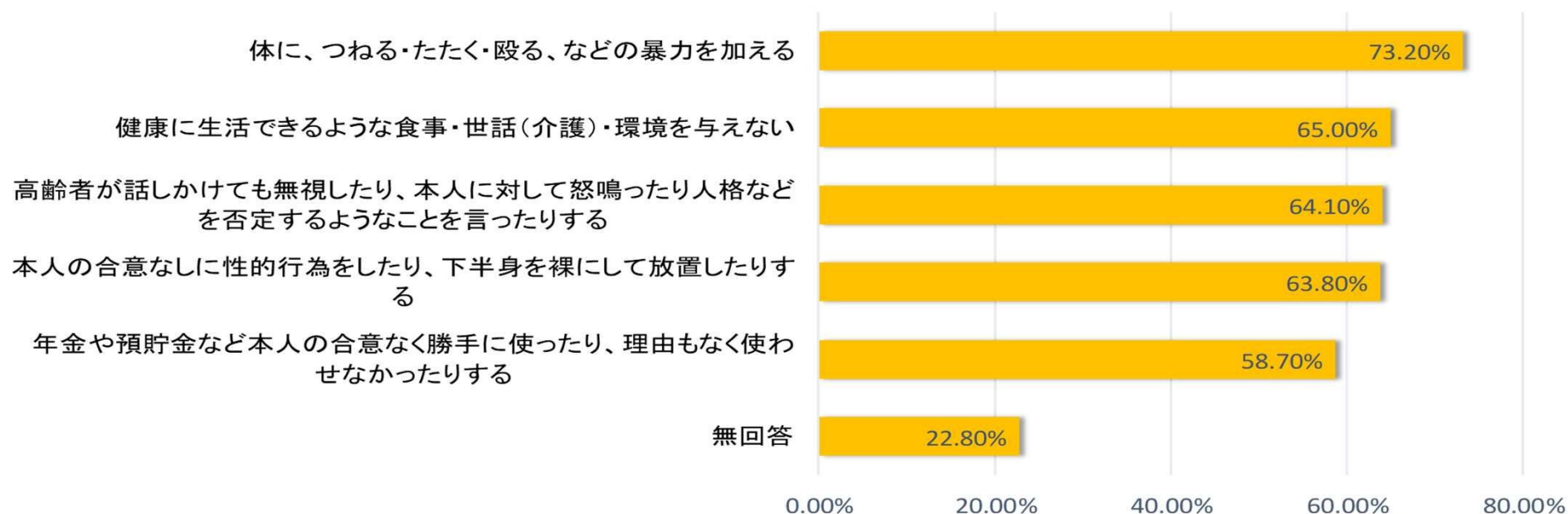


約3割の人が高齢者虐待について見聞きしたことが「全くない」「わからない」

4-4 データに基づく課題（虐待防止）

【図表12】虐待に該当すると思う行為

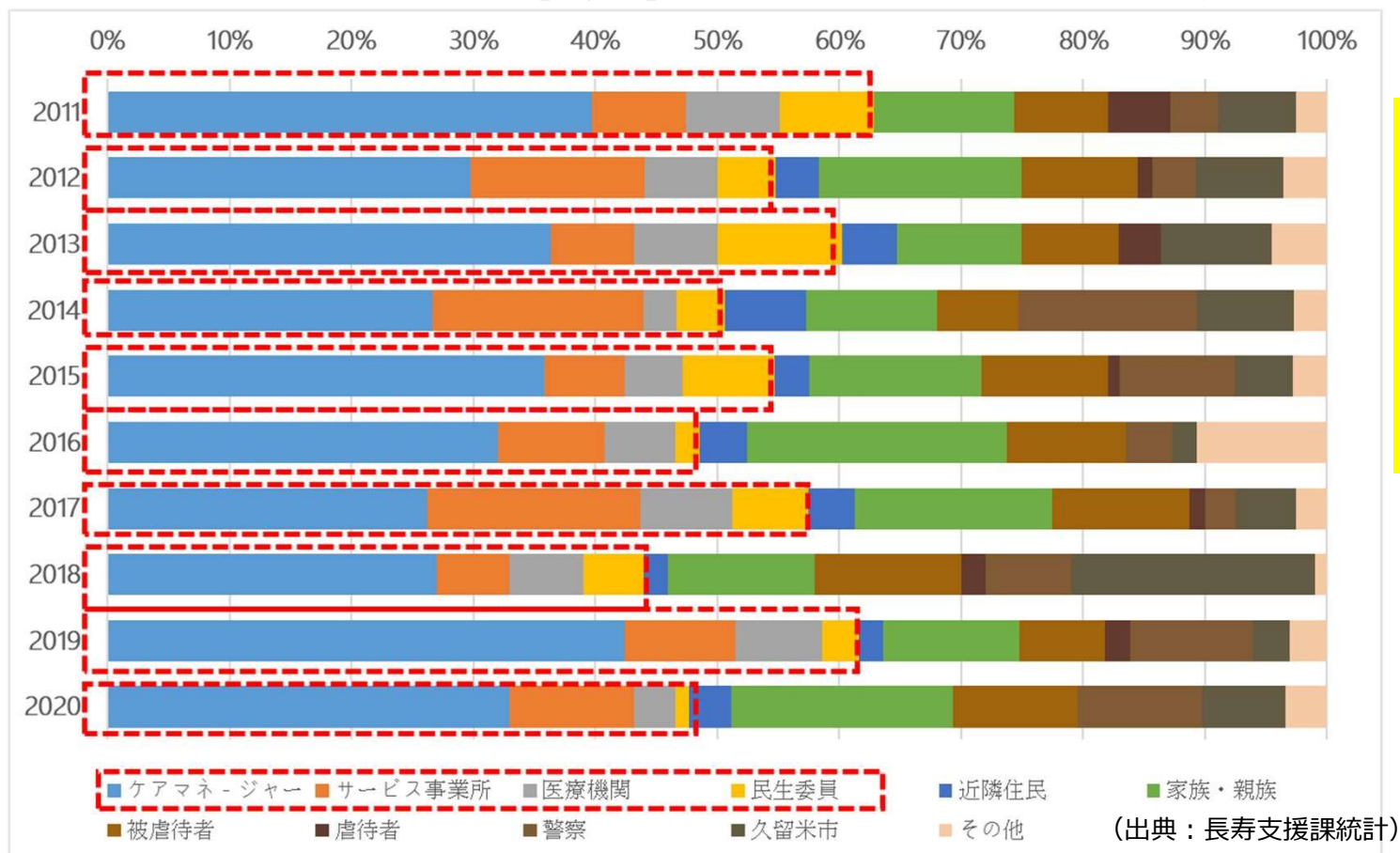
（出典：2019年久留米市高齢者実態調査）



虐待について正しく理解できていない人が多い

4-5 データに基づく課題（虐待防止）

【図表13】高齢者虐待に関する経路別相談・通報件数の割合



ケアマネージャーやサービス事業者、医療機関、民生委員からの通報の割合は約6割である。

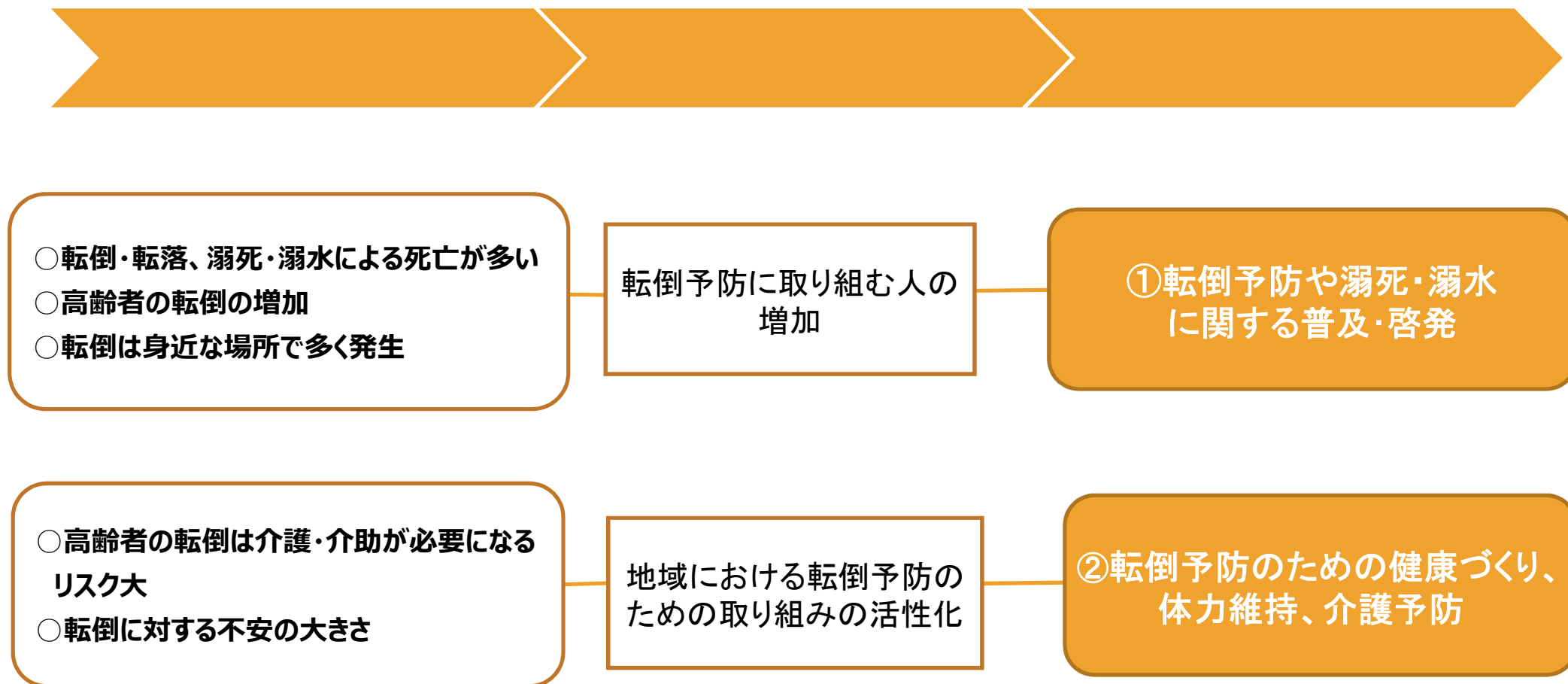
4-6 課題の整理（高齢者の虐待防止について）

- | | | |
|----------------------------|-----|--|
| ○ 高齢者虐待と認知症との関連 | ... | 被虐待者の約6割が認知症【図表9】 |
| ○ 同居親族による虐待事例の多さ | ... | 虐待事例の7割以上が同居親族によるもの【図表10】 |
| ○ 虐待に対する意識の低さ | ... | 約3割の人が高齢者虐待について見聞きしたことが「全くない」「わからない」【図表11】
虐待を正しく理解できていない人が多い【図表12】 |
| ○ 本人や家族からの相談・通報の少なさ | ... | ケアマネージャーやサービス事業所、医療機関、民生委員からの通報の割合は約6割 【図表13】 |

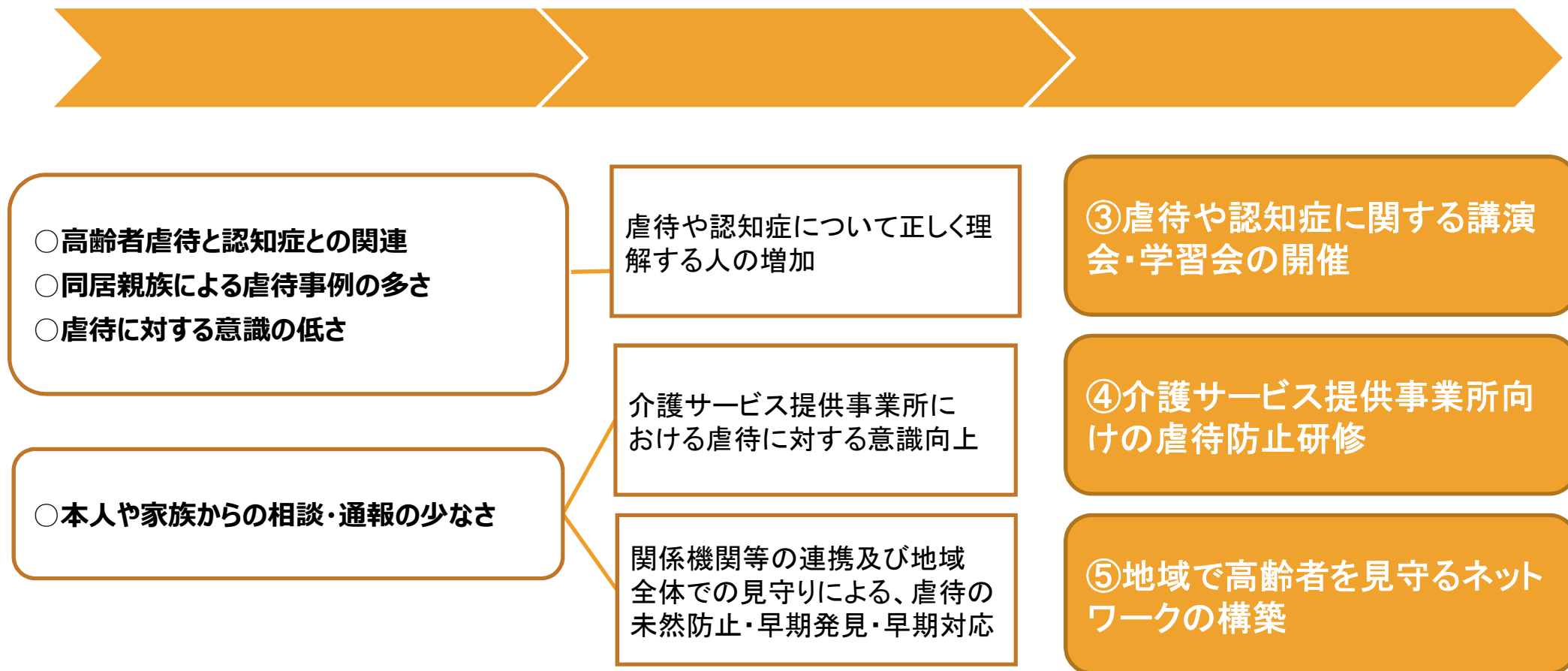


虐待防止の啓発および虐待の早期発見に取り組む必要がある

5- 1 課題解決のための目標と具体的施策



5-2 課題解決のための目標と具体的施策



6-1 レベル別の対策

【図表14】

具体的施策	対 策			
	方向性	国県レベル	市レベル	地域レベル
転倒予防や溺死・溺水に関する普及・啓発	教育・啓発		窓口・イベント等での周知 【対策委員会】 転倒予防パンフレットの作成・配布	関係団体による研修等
	規制			
	環境整備		介護保険住宅改修の補助事業	
転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防	教育・啓発		介護予防事業、ラジオ体操の推進 【対策委員会】 介護予防プログラムの実践	ウォーキング大会、介護予防の取り組み
	規制			
	環境整備	介護予防事業の見直し	介護予防の講師派遣 インターネットを活用した介護予防	

6-2 レベル別の対策

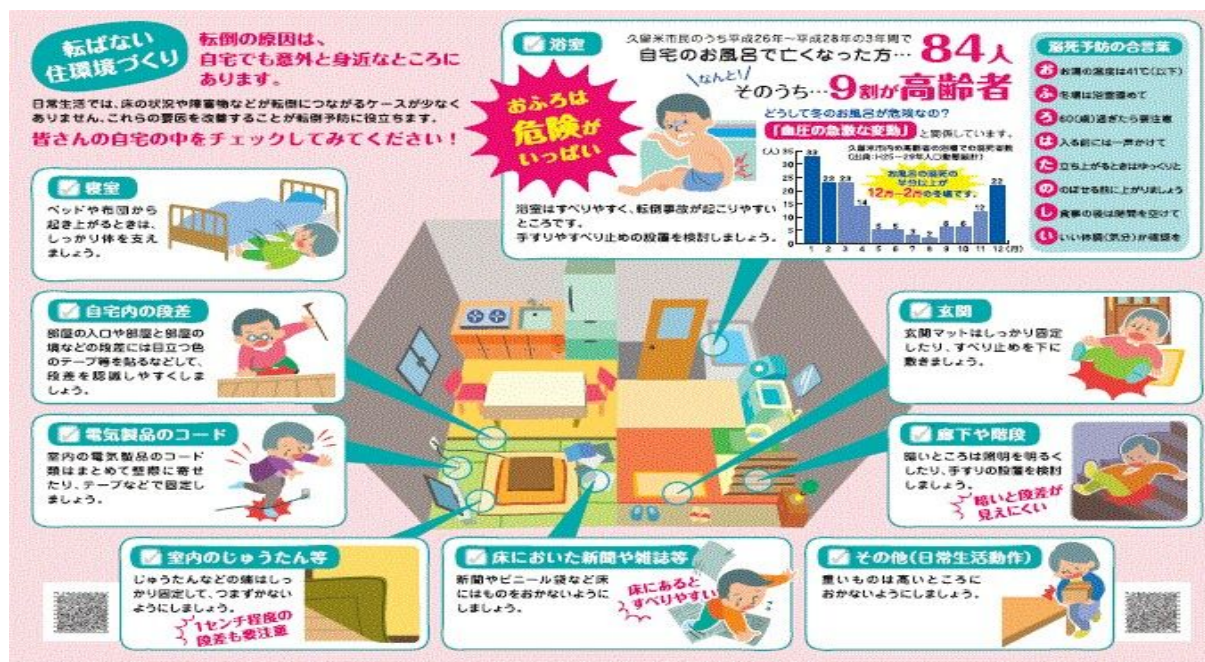
【図表15】

具体的施策	対 策			
	方向性	国県レベル	市レベル	地域レベル
虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催	教育・啓発	認知症施策推進大綱	認知症サポーター養成、家族介護教室 【対策委員会】 キャラバン・メイトとしてサポーターを養成、家族介護教室の講座を実施	認知症サポーター養成
	規制			
	環境整備	高齢者虐待防止法	認知症予防地域講演会	
介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修	教育・啓発		介護サービス提供事業者向け研修 【対策委員会】虐待防止研修の実施	地域や関係機関からの通報
	規制			
	環境整備	高齢者虐待防止法		
地域で高齢者を見守るネットワークの構築	教育・啓発		高齢者の見守り、地域ケア会議 【対策委員会】虐待通報や相談への対応、地域ケア会議への出席	高齢者の見守り、地域ケア会議
	規制			
	環境整備		ネットワーク構築	

7-1 具体的施策の紹介・成果

【転倒予防や溺死・溺水に関する普及・啓発】

転倒予防パンフレットの改定



データの更新やイラストを分かりやすく改定。また、入浴時の危険（溺死・溺水）を追加し、ヒートショックの予防について記載した。

7-2 具体的施策の紹介・成果

【転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防】

にこにこステップ運動（教室型・講師派遣型）



介護予防のきっかけづくりとする教室を開催。また、教室参加者を中心に結成された自主グループが、運動を継続的に行えるように、専門講師の派遣を実施。

7-3 具体的施策の紹介・成果

【転倒予防や溺死・溺水に関する普及・啓発】

介護予防体操動画の作成

※コロナ禍の取組み



「タオルDE こげんよか体操」の動画を作成し、いつでも視聴できるように市のHPへ掲載。DVD作成し、希望団体へ配布。

7-4 具体的施策の紹介・成果

【転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防】

介護予防事業の拡充



ケア・トランポリン教室の拡充
や、屋外でのスロージョギング
教室の実施、自主グループ化
を支援した。

7-5 具体的施策の紹介・成果

【虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催】

認知症サポーター養成講座

5年間で
10,851人参加

【図表16】久留米市における認知症サポーター数（累計）



7-6 具体的施策の紹介・成果

【虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催】

家族介護教室の内容等の変更

教室の内容や、市公式LINEを活用するなど広報方法についても見直しを行い、参加者が増加した。

教室参加者数
2017年度 72人
→ 2021年度 116人

プロに学ぶ！
令和3年度 久留米市家族介護支援事業

家族介護教室

●講座日程・内容・講師 【定員】各講座15名(先着順)

日程・会場	テーマ・内容	講師
1 10月9日(土) 10時～13時 エー・ム・ビエ・ア・ス・留米 調理実習室 (飯野町1830-6)	高齢者に優しい食事(調理実習) ・食べやすい食材・調理の工夫 ・調理実習(朝食まで)参加費500円	NPO法人栄養ケア・まっご 管理栄養士
2 10月30日(土) 13時30分～15時30分 エー・ム・ビエ・ア・ス・留米 美術室2 ※15時45分より在宅介護者の交流会を行います(1時間程度、自由参加)	家族介護に伴うストレスへの対応 ・ストレスについて ・ストレスによる症状の改善法	株式会社セイコウカレッジ 代表 香口理美氏
3 11月6日(土) 13時30分～16時45分 エー・ム・ビエ・ア・ス・留米 美術室2	認知症の方とのコミュニケーション ・認知症の基礎知識 ・コミュニケーション技法の紹介・技法(バリエーション)に挑戦	いちろうの杜グループ 高松良 堀江純子氏
4 11月20日(土) 10時～12時 久留米シティプラザ 展示室 (六ツ門町8-1)	負担が少ない介護方法 ・介助する際の身体の使い方 ・ベッドでの搬送から車いすへの移乗 ・福祉用具の紹介と活用方法	医療法人 橋本院 理学療法士 金子貴志氏 九州ホームケアサービス株式会社 福祉用具認定士 井手純寛氏
5 12月4日(土) 10時～12時 エー・ム・ビエ・ア・ス・留米 301・302学習室	仕事と介護の両立ポイント ・介護が必要になったときの対応 ・介護保険やその他のサービスの活用 ・介護が始まる前に出来ること	株式会社セイコウカレッジ 代表 香口理美氏
6 1月15日(土) 10時～12時 エー・ム・ビエ・ア・ス・留米 301・302学習室	健康維持増進のための口腔ケア ・口腔ケアの方法と効果 ・口腔ケア演習	一般社団法人 久留米歯科医師会 在宅歯科医療推進室
7 1月22日(土) 10時～12時 エー・ム・ビエ・ア・ス・留米 301・302学習室	排泄ケアのポイント ・排泄の基礎知識(排泄障害と対応) ・自立排泄について ・オムツの選び方	株式会社ジーエム 介護事業部「ユーデルフェイス」 部長 待島伸司氏
8 2月19日(土) 10時～12時 エー・ム・ビエ・ア・ス・留米 301・302学習室	自宅で安心して暮らせる環境づくり ・自宅の危険な場所と対策 ・福祉用具の活用 ・相談先や制度	株式会社 TASUKIリハビリサービス 代表 桑島俊明氏

ご家族の介護でお悩みではありませんか？
・認知症になってどのように接したらいいのか悩んでいる。
・介護がいつもイライラ。ストレスを抱えている。
・介護をしながら仕事を続けられるか不安。 など…

ご家族を介護するための知識や負担軽減のコツなどをお伝えします！

LINE VOICE

7-7 具体的施策の紹介・成果

【介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修】

介護事業所向け虐待防止研修

※コロナ禍の取組み



研修の実施方法
集合形式→オンライン

研修参加者数
2019年度 271人
→ 2021年度 413人

8- 1 具体的施策の取り組み成果（短期・中期・長期）

《転倒予防に関する普及・啓発》

指標	内容	2016	2017	2018	2019	2020	2021
短期	転倒予防対策の必要性を認識した人の割合 [参加者アンケート調査]	2017 より実施	91.4%	90.9%	—	89.5%	89.6%
中期	転倒予防対策を行う人の割合 [高齢者実態調査(3年毎)]	57.3%	—	—	60%	—	—
長期	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合 [高齢者実態調査(3年毎)]	20.8%	—	—	23.0%	—	—

8-2 具体的施策の取り組み成果（短期・中期・長期）

《転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防》

指標	内容	2016	2017	2018	2019	2020	2021
短期	70歳以上で健康づくりのために運動している割合（1日30分以上、週2日以上） [市民意識調査]	54.5%	56.7%	53.4%	53.8%	—	52.7%
中期	高齢者のけがの原因のうち「転倒」の割合[SC実態調査(3年毎)]	—	51.9%	—	—	—	49.5%
長期	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合 [高齢者実態調査(3年毎)]	20・8%	—	—	23.0%	—	—

8-3 具体的施策の取り組み成果（短期・中期・長期）

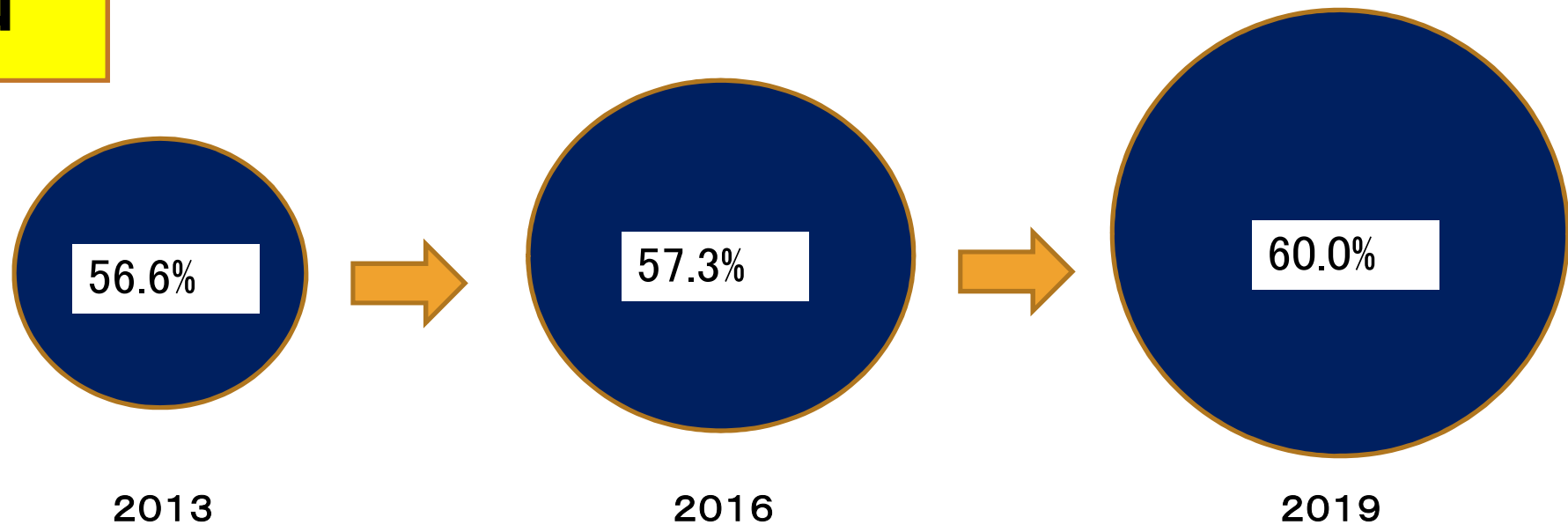
《高齢者虐待防止》

指標	内容	2016	2017	2018	2019	2020	2021
短期	虐待を正しく理解する市民の割合 [高齢者実態調査(3年毎)]	身体的64.7% 経済的51.2% 性的54.8% 介護放棄56.6% 心理的56.2%	—	—	身体的73.2% 経済的58.7% 性的63.8% 介護放棄65.0% 心理的64.1%	—	—
中期	地域や事業者からの相談や通報件数の割合 (/全通報件数中)[長寿支援課統計]	48.5%	57.5%	59.8%	61.0%	47.7%	68.3%
長期	虐待発生率 [長寿支援課統計]	0.081%	0.083%	0.077%	0.072%	0.062%	0.046%

9-1 取り組みによる全体的な効果

対策を行う人
増加

【図表17】転倒を予防するための対策を行う人の割合
(出典:久留米市高齢者実態調査)



9-2 取り組みによる全体的な効果

高齢者虐待の相談・通報件数は横ばい



10 課題と今後の対応

【転倒予防 ・ 溺死、溺水予防】

- ◆さらなる転倒予防実践への働きかけの必要性
- ◆自主的な介護予防活動の拡大
- ◆自宅の浴槽での溺死予防に関する効果的な啓発

【高齢者の虐待防止】

- ◆認知症を正しく理解する啓発
- ◆家族介護の負担軽減

ご清聴ありがとうございました。



高齢者の安全対策委員会